

精神科救急病棟における隔離・拘束患者への提示物を使用した関わり ～行動制限に対する不安・不満の軽減に有効か～

1. 研究の対象

①2013年～2017年の9月1日～11月30日に当院で隔離または拘束の処遇を受けられた方

2. 研究目的・方法

隔離・拘束患者への提示物を使用した関わりが、患者の不安・不満の軽減に有効かどうか、また行動制限日数の短縮にも有効かどうかを検証し、提示物を使用したスタッフの意識調査も研究目的としています。

上記①期間に隔離・拘束を受けられていた方を2018年9月1日～同年11月30日の間に隔離・拘束を受けられている方の行動制限日数の比較対象とします。

2018年9月1日～同年11月30日の間に隔離・拘束を受けられた方へ提示物を使用し関わり、統計とアンケート調査を行う事で、行動制限に対する不安・不満の軽減に有効であるかを検討します。

研究期間（2018年9月1日～2019年3月31日）

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、病名、入院回数、入院期間・入院形態・カルテ番号 隔離拘束期間 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承頂けない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者：社会医療法人北斗会 ほくとクリニック病院 看護師 松浦 央明

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

連絡先担当者：ほくとクリニック病院 大阪市大正区三軒家西 1-18-7 06-6554-1399

看護部 看護師 松浦 央明・飯田 和己・荒木 一乃